



筒井宣政会長・東海メディカルプロダクツ

学会 業電学 演講 新春 開新

東海メディカルプロダクツ

筒井宣政会長講演

関学電業会の新春講演会で、東海メディカルプロダクツの筒井宣政会長は「先端医療機器の開発に挑戦し続ける『日本三大疾病に挑む』」のテーマで要旨次のように述べた。

私が医療分野に参入したのは約50年前で、日本では開胸術が遅れていま

先端医療機器の 開発に挑戦し続ける 『日本三大疾病に挑む』

入れて、心臓を修復する器具は余りにもリスクが大きいため、日本では手付けられない状況でした。次女・佳美は重い先天性の心臓病を患い、生まれられました。当時の器具は全てアメリカ製で大きくて太いため、検査や治療するには困難でした。次女・佳美のため

IABPバルーン カテーテルを開発

国産初

娘のためから患者さんのために 1人でも多くの生命を救いたい

に理想的な人工心臓が1つあれば、どんなに助かるであろうというのが約40年前で、そんな理由で医療の世界に入りまし

（※1）IABPバルーンカテーテルは心臓の働きを補助する器具。状態としており、狭心症や心筋梗塞などで心臓の働きが悪くなったときに

筒井宣政氏（ついで、のぶまさ）のプロフィール
昭和39年3月関西学院大学経済学部卒業、4月東海高分子化学入社、47年6月専務取締役、57年6月代表取締役、56年10月東海メディカルプロダクツ代表取締役、平成24年12月会長就任。
昭和16年生まれ。

日本には良い製品を作るDNAがある！

したが、薬（わら）一本ながら約8億円の資金を紙一枚を惜しんでやってきた私にはすぐには決断できなかったです。それでも妻の提案を受け入れ、主治医に相談してみ、このために、諦めました。これに代わって、国産初のIABP（大動脈内バルーンポンピング）バルーンカテーテル（※2）を開発しました。これは日本人の基準に合わせたため、合併症を起こすことがありませんが、私は

返済することができず、返すことができませんでした。全く無知でしたが、材料研究の医療高分子研究会に入り、昭和53年から人工心臓の研究を開始し、昭和56年に東海メディカルプロダクツを設立しました。当初の2千数百万円では足りず自己資金も出さず、公的資金も利用し

は血管の長さや太さは身長と相関関係があると考え、その統計をもとに1989年、日本人向けS、M、LサイズのIABPバルーンカテーテル開発に国産で初めて成功しました。